

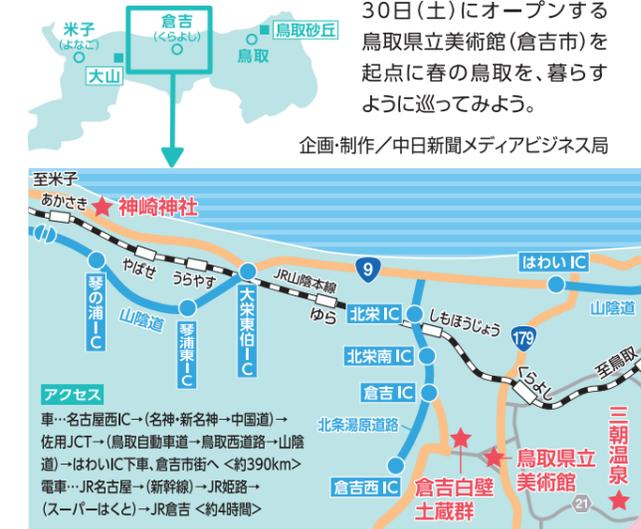
2025年
新名所が誕生した
県中部に注目号
名古屋から鳥取へ



暮らすように巡る 春の鳥取

～新たに開館した
県立美術館を起点に～

観光資源が豊富な鳥取県は、訪れた先の環境に自分を合わせて過ごすのが楽しい。テーマを決めて巡れば、さらにその魅力は深まるでしょう。今回のテーマは、「県民目線を加えた観光地巡り」。今日3月30日(土)にオープンする鳥取県立美術館(倉吉市)を起点に春の鳥取を、暮らすように巡ってみよう。



企画・制作/中日新聞メディアビジネス局

鳥取に初の県立美術館が誕生

美しい自然や歴史・文化スポット、温泉など、鳥取県の観光資源の多彩ぶりには目を見張るものがあります。しかも、こうした環境に県民が親しみ、ときには暮らしの中で活用されているのは見逃せないポイントです。

鳥取県立美術館は本日オープン。そのため、県民でさえ活用はこれから...ではありません。1年前から、作品搬入前の展示室を使ったイベントやワークショップを頻繁に行うなど、全国でも例のない建物活用で県民とは「交流済み」。同県地域社会振興部の生田憲二郎さんによると展示以外のコンテンツも続けていくそう。「今まで美術館のなかった地で暮らす皆さんがそうだったように、ここでは観光で訪れた方にもアートの敷居の高さを感じることもなく楽しんでほしいです」

初の県立美術館建設にあたり、鳥取県は従来の公共による整備ではなく民間の資金や経営力を活用し、設計から運営まで委ねるPFI手法を導入しました。公立の美術館としては全国初の試みで、地上3階の内部は、隣接の大御堂(おおみどう)廃寺跡(国史跡)も展望できる、「ひろま」と名付けた吹き抜けが印象的です。1階は県民ギャラリーやキッズスペースなど、2階に常設展示と収蔵庫、企画展示を行う3階には展望テラスも整備。収蔵品は、アートファンの間でも話題のアンディ・ウオーホル作「プリロの箱」をはじめ、国内外から約1万点を集めています。

「誰にでも開かれた空間です」という生田さん。のんびりと作品を眺め、県民に混じってイベントにも参加してみる。「暮らすように」楽しみ、楽しめる鳥取県立美術館へようこそ。

倉吉白壁土蔵群と三朝温泉

鳥取県立美術館を起点に巡るとなれば、倉吉白壁土蔵群は外せません。主に江戸後期〜昭和初期の建物保存を図る地区で、白漆喰の壁に赤い石州瓦の土蔵の連なりは代表的な景観。他に、格子窓の造り酒屋、かつて銀行だった建物は、いわゆるレトロモダンです。「観光と暮らしが一体化し、営みを続けています」とは、倉吉観光MICE協会の倉繁淳志事務局長。大正期の土蔵を活用した店「土蔵そば」では、近隣住民らしき人たちが談笑していました。例えば、名物の手打ちそばを味わい、県民と触れ合うのも良さそうです。

温泉地でも暮らすように過ごしてみませんか。鳥取県立美術館と同じ県中部にある三朝温泉(東伯郡三朝町)は、県内屈指の名湯。温泉といえば非日常ですが、旅館など22の湯宿のうち14施設では、宿泊しなくても日帰り入浴が可能。同温泉旅館組合の中川隼事務局長は、「地元の人たちと同じように気軽に三朝の湯を楽しんで」と呼び掛けます。4月26日(日)〜5月4日(日)は「日本遺産ウィーク」と題したイベントも開催されます。

鳥取を訪れたのなら、ときには少し歩幅を狭めて周りを眺めてみましょう。日常に視線を向けた先には、自然体の鳥取の魅力が詰まっているはず。



1〜3.鳥取県立美術館。開館時間は9〜17時。月曜休館(祝日の場合は翌平日)。入館料400円など。4.倉吉白壁土蔵群。5.店名を冠した看板メニュー「土蔵そば」は870円。6.足を延ばして訪れたい神崎神社の龍の彫刻。日本一長いとされている。7.三朝温泉の露天風呂

問い合わせ

鳥取県名古屋代表部
名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル5階
TEL. **052-262-5411**
<https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>

鳥取県の観光情報は
こちらから